

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読 I a		左近 豊	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書ヒブル語本文を批判的の手続きを経ながら読むことを主眼とします。			
＜到達目標＞ 学生がテキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特徴を把握することができるようになる。			
＜授業の概要＞ エレミヤ書と哀歌を取り上げます。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映しています。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学びます。			
＜履修条件＞ ヒブル語文法履修者			
＜授業計画＞ 第1回：エレミヤ書 序 1:1-3 第2回：エレミヤ書 1:4-8 第3回：エレミヤ書 1:9-10 第4回：エレミヤ書 1:11-13 第5回：エレミヤ書 1:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:1-3 第8回：エレミヤ書 2:4-6 第9回：エレミヤ書 2:7-9 第10回：エレミヤ書 2:10-13 第11回：エレミヤ書 2:14-16 第12回：哀歌 1:3~5 第13回：哀歌 1:6~7 第14回：哀歌 1:8~11 第15回：総括			
＜準備学習等の指示＞ 事前に当該箇所の釈義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。			
＜テキスト＞ <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia</i> (BHS)			
＜参考書・参考資料等＞ 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i> . (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament</i> (HALOT)、 文法書: <i>Gesenius' Hebrew Grammar</i> 、B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i> 、 H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i> . 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i> 、『左近淑著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i> 、 S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i> 、E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament</i> (LXX) など			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加 60％ 期末レポート 40％ 評価にあたっては共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書原典講読 I b	宮 寄 薫	<担当形態> 単独
後期・2 単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 創世記 3 7 章・3 8 章のヘブライ語原典（マソラ本文）を読む。		
<到達目標> 辞書を用い、ヘブライ語本文の語分析、構文批判等により、テキストを正確に深く読むことができる。		
<授業の概要> 創世記 3 7 章から始まる「ヨセフ物語」を原典で読む。辞書（BDB）を用い原語を丁寧に分析し、翻訳をする。歴史的背景を考慮しつつ、資料説、伝承史等を検討し、文学的特徴や手法、および神学的メッセージを探る。「ヨセフ物語」に挿入された 3 8 章のユダに関する物語の位置づけと意義についても考察したい。		
<履修条件> ヘブライ語の基礎文法修得者。		
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 創世記 3 7：1-4 ヤコブの家族 第 2 回 創世記 3 7：5-8 ヨセフの夢 第 3 回 創世記 3 7：9-1 1 ヨセフの別の夢 第 4 回 創世記 3 7：1 2-1 7 ヨセフ、ドタンへ行く 第 5 回 創世記 3 7：1 8-2 2 ヨセフ、穴に投げ込まれる 第 6 回 創世記 3 7：2 3-2 8 ヨセフ、エジプトに売られる 第 7 回 創世記 3 7：2 9-3 2 ヨセフの着物 第 8 回 創世記 3 7：3 3-3 6 ヤコブの嘆き 第 9 回 創世記 3 8：1-5 ユダの家族 第 1 0 回 創世記 3 8：6-1 1 ユダの息子たちの死 第 1 1 回 創世記 3 8：1 2-1 5 ユダ、ティムナに行く 第 1 2 回 創世記 3 8：1 6-1 9 ユダとタマルの交渉 第 1 3 回 創世記 3 8：2 0-2 3 タマル、身を隠す 第 1 4 回 創世記 3 8：2 4-2 6 ユダの保証の品 第 1 5 回 創世記 3 8：2 7-3 0 タマルの出産		
<準備学習等の指示> 予習してくること。		
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）：Genesis、聖書の諸翻訳。		
<参考書・参考資料等> The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon (BDB)、「ヒブル語入門」[改訂増補版]（左近義慈／本間敏雄）、BHS のマフテアハ（小林洋一編訳）、「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳)、von Rad, Genesis (ATD) など創世記の注解書。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習状況と課題発表、レポートにより評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書原典釈義Ⅱ a	大島 力	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> イザヤ書40ー48章の原典釈義（1）		
<到達目標> 第二イザヤ書（40ー55章）前半の思想内容を原典釈義に基づき理解する。		
<授業の概要> イザヤ書40章以下の原典を音読し、日本語に翻訳する。各単元の文学的構造に着目し、その思想を読み取る。		
<履修条件> ヘブライ語基礎文法習得者であること。		
<授業計画> 第1回 ガイダンス 第2回 イザヤ書40：1ー8 第3回 40：9ー11 第4回 40：12ー17 第5回 40：18ー26 第6回 40：27ー31 第7回 41：1ー7 第8回 41：8ー13 第9回 41：14ー16 第10回 41：17ー20 第11回 41：21ー24 第12回 41：25ー29 第13回 42：1ー4 第14回 42：5ー9 第15回 42：10ー13 総括		
<準備学習等の指示> ヘブライ語の該当本文の語彙を調べ、文法的説明ができるように準備して臨むこと。		
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)		
<参考書・参考資料等> F.Brown,S.R.Driver,and C.A.Briggs eds.,Hebrew and English Lexicon of the Old Tesatament.(BDB). L.Koehler and W.Baumgartner,The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Tesatament.(HALOT) その他は、講義時に紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業課題と期末レポート（4000字程度）。レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義Ⅱ b		大島 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> イザヤ書40ー48章の原典釈義(2)			
<到達目標> 第二イザヤ書（40ー55章）前半の思想内容を原典釈義に基づき理解する。			
<授業の概要> イザヤ書42章以下の原典を音読し、日本語に翻訳する。各単元の文学的構造に着目し、その思想を読み取る。			
<履修条件> ヘブライ語基礎文法習得者であること。			
<授業計画> 第1回 イザヤ書42：14ー17 第2回 42：18ー25 第3回 43：1ー7 第4回 43：8ー15 第5回 43：16ー28 第6回 44：1ー8 第7回 44：9ー20 第8回 44：21ー45：8 第9回 45：9ー13 第10回 45：14ー25 第11回 46：1ー13 第12回 47：1ー15 第13回 48：1ー11 第14回 48：12ー22 第15回 総括			
<準備学習等の指示> ヘブライ語の該当本文の語彙を調べ、文法的説明ができるように準備して臨むこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)			
<参考書・参考資料等> F.Brown,S.R.Driver,and C.A.Briggs eds.,Hebrew and English Lexicon of the Old Testament.(BDB). L.Koehler and W.Baumgartner,The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament.(HALOT) その他は、講義時に紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業課題と期末レポート（4000字程度）。レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅰ a		田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 詩編の解釈			
<到達目標> 詩編の言葉を原典や諸翻訳（古代語訳含む）によって丁寧に読み、その神学的メッセージを理解すること。			
<授業の概要> 詩編を皆で注解的に考察し、適宜個別のトピックの考察も行いながら、演習形式で授業を進める。学生の皆さんには、その日の授業で割り当てられた毎回の詩編を事前に原典でできるだけ読んでいただき、また注解書その他の二次資料も読んでいただいた上で、授業にのぞんでいただく。授業では詩編の言葉を原典を参照しながら読み進め、詩編の言葉の解釈を巡る議論を互いに紹介し合いながら、詩編の言葉を深く把握することを目指す。尚、前期では詩編8-12編を扱う。			
<履修条件> ヒブル語を既に受講していること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション+詩編研究史概観① 第2回 詩編研究史概観② 第3回 詩編8編① 原典の講読 第4回 詩編8編② 解釈に関する討論 第5回 詩編9編① 原典の講読（前半） 第6回 詩編9編② 原典の講読（後半） 第7回 詩編9編③ 解釈に関する討論 第8回 詩編10編① 原典の講読（前半） 第9回 詩編10編② 原典の講読（後半） 第10回 詩編10編③ 解釈に関する討論 第11回 詩編11編① 原典の講読 第12回 詩編11編② 解釈に関する討論 第13回 詩編12編① 原典の講読 第14回 詩編12編② 解釈に関する討論 第15回 全体のまとめ			
<準備学習等の指示> 事前に次回扱う詩編を原典で読み、解釈上の課題を注解書で把握しておくこと。尚、進度には若干の変更が生じる場合がある。			
<テキスト> BHS、聖書諸翻訳			
<参考書・参考資料等> 初回授業にて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業における予習・参加度の度合いと、各期末のショートペーパー（4000字程度）によって評価する。尚、評価は「共通評価指標」（1）に基づいて行う。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅰb		田中 光	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期と同じ。			
＜到達目標＞ 前期と同じ。			
＜授業の概要＞ 基本的な授業の概要は前期と同じ。後期では詩編13-18編を扱う。			
＜履修条件＞ 前期と同じ。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 詩編13編① 原典の講読 第3回 詩編13編② 解釈に関する討論 第4回 詩編14編① 原典の講読 第5回 詩編14編② 解釈に関する討論 第6回 詩編15-16編① 原典の講読 第7回 詩編15-16編② 解釈に関する討論 第8回 詩編17編① 原典の講読（前半） 第9回 詩編17編② 原典の講読（後半） 第10回 詩編17編③ 解釈に関する討論 第11回 詩編18編① 原典の講読（三分の一） 第12回 詩編18編② 原典の講読（三分の二） 第13回 詩編18編③ 原典の講読（三分の三） 第14回 詩編18編④ 解釈に関する討論 第15回 全体のまとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前期と同じ。			
＜テキスト＞ 前期と同じ。			
＜参考書・参考資料等＞ 前期と同じ。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期と同じ。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書学特研Ⅱ a	小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 知恵文学概論－どう生きるかを学ぶために		
<到達目標> 旧約聖書の知恵文学の全体像を知り、今をどう生きるかについて知見を得る。		
<授業の概要> 知恵文学に含まれる各書の内容と思想を概観する。		
<履修条件> 知恵文学について関心があり、理解したい人。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 知恵文学とは何か 第3回 箴言1 第4回 箴言2 第5回 コヘレトの言葉 第6回 ヨブ記1 第7回 ヨブ記2 第8回 知恵の詩編 第9回 ベン・シラの書 第10回 ソロモンの知恵 第11回 雅歌 第12回 知恵の神学 第13回 知恵と律法/預言 第14回 知恵と黙示 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> レジュメを用意するが、毎回取り上げられる書について基本的なことを知っておくこと。		
<テキスト> 聖書協会共同訳・続編付きを用いる。		
<参考書・参考資料等> その都度、指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への積極性、学期末にレポート（6,000字）の提出で評価する。共通評価指標（1）を用いる。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学特研Ⅱ b		小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 拙著『謎解きの知恵文学』を用い、雅歌の解釈について学ぶ。			
<到達目標> 雅歌の解釈の可能性を学び、この書を用いて説教ができるようになる。			
<授業の概要> 拙著『謎解きの知恵文学』を一章ずつ講読する			
<履修条件> 雅歌の解釈について関心がある人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「雅歌」をどう解釈するか 第3回 古代オリエントの恋愛歌 第4回 タルグムの「雅歌」解釈 第5回 ベルナールの「雅歌」解釈 第6回 バルトとゴルヴィツァーの「雅歌」解釈 第7回 現代ユダヤ哲学の「雅歌」解釈 第8回 トリブルの「雅歌」解釈 第9回 ラコックの「雅歌」解釈 第10回 知恵文学の「謎解き」 第11回 知恵文学としての「雅歌」 第12回 「雅歌」を謎解きする 第13回 「雅歌」を取り戻せ 第14回 雅歌は知恵文学か 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、その内容をよく考える。			
<テキスト> 小友聡『謎解きの知恵文学 旧約聖書「雅歌」に学ぶ』、ヨベル、2021年。テキストはこちらで用意する。			
<参考書・参考資料等> その都度、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への積極性、学期末にレポート（6,000字）の提出で評価する。共通評価指標（1）を用いる。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書学演習Ⅱ a	矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 旧約聖書学の専門書をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。		
<到達目標> 旧約聖書の人間論について基本的な考え方を身に着ける。		
<授業の概要> H. W. ヴォルフ『旧約聖書の人間論』を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。それに加えて、人間論的用語を中心に展開されている 1～8 章については、ヘブライ語のコンコーダンスも用いて実際に聖書箇所にあたることで考察を深める。		
<履修条件> ヘブライ語の知識はなくてもよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 第1章 nepes—困窮した人間 p.33-p.66 第3回 第2章 basar—衰弱した人間 p.67-p.78 第4回 第3章 ruah—強められた人間 p.79-p.94 第5回 第4章 leb(ab)—分別ある人間 p.95-p.133 第6回 第5章 肉体の生命、第6章 肉体の内部 p.134-p.148 第7回 第7章 肉体の形姿、第8章 人間の本質 p.149-p.172 第8回 第9章 旧約聖書の時間概念 pp.175-p.192 第9回 第8章 人間の本質 pp.162- 第10回 第10章 創造と誕生、第11章 生と死、第12章 若いことと年老いること pp.193-p.260 第11回 第13章 目ざめていることと労働、第14章 眠りと休息、第15章 病気と癒し、 第16章 人間の希望 p.261-p.314 第12回 第17章 神の像—世界の管理者、第18章 夫と妻、第19章 両親と子どもたち p.317-p.364 第13回 第20章 兄弟、友人、敵、第21章 主人と奴隷、第22章 知者と愚か者 p.365-p.415 第14回 第23章 個人と共同体、第24章 人間の定め pp.417-p.445 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 発表者以外も、毎回、あらかじめテキストを読んで授業にのぞむこと。		
<テキスト> H.W.ヴォルフ『旧約聖書の人間論』大串元亮訳、日本基督教団出版局		
<参考書・参考資料等> Biblia Hebraica Stuttgartensia ; Theological Dictionary of the Old Testament の各項目 ; ヘブライ語コンコーダンス (G.Lisowsky, Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament など)。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（1）を用いる。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書学演習Ⅱ b	矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	＜科目＞	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）
＜授業のテーマ＞ ヘブライ語の単語に注目して旧約聖書を読む。コンコーダンスと旧約神学用語辞典の利用。		
＜到達目標＞ ヘブライ語のコンコーダンスを使えるようになる。旧約神学用語辞典を読みこなす。それらを通して、ヘブライ語を履修していない人、聖書神学専攻でない人でも、「ヘブライ語で」旧約聖書が読めるようになることを目指す。		
＜授業の概要＞ 旧約聖書神学の基本的な概念について、ヘブライ語に注目し、具体的に聖書箇所当たることによって究明する。毎回、参加者に神学用語辞典とコンコーダンスに基づいた発表をしていただく。		
＜履修条件＞ ヘブライ語の知識があらかじめある必要はないが、コンコーダンスや神学用語辞典を利用できる程度にはヘブライ語アルファベットの識別などを身に付けていただくことになります。		
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 אהב (愛) 第3回 חסד (愛／忠実) 第4回 ברית (契約) 第5回 קדש (聖) 第6回 צדק (義) 第7回 משפט (裁き) 第8回 חטא (罪) 第9回 גאול (贖い) 第10回 פדה (贖い) 第11回 שוב (悔い改め) 第12回 נחם (悔い改め) 第13回 ישע (救い) 第14回 עולם (永遠) 第15回 まとめ		
＜準備学習等の指示＞ 発表準備に加えて、毎回、あらかじめ取り上げる単語に注目して聖書を読んでおくこと。		
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia		
＜参考書・参考資料等＞ <i>Theological Dictionary of the Old Testament</i> の各項目；G.Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> , その他の参考文献はそのつど指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。共通評価指標（1）を用いる。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
シリア語 a		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞練習問題に取り組むながら、ペシッタを読むために必要なシリア語文法を学ぶ。			
＜履修条件＞ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回：序 シリア語を学ぶ意義等を話し、子音について （1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。			
＜テキスト＞Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3 rd .ed.,Oxford University Press, London, 1949.			
＜参考書・参考資料等＞ William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz , 1987			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」の①～④の内容を重視する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
シリア語 b		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞シリア語文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）			
＜履修条件＞シリア語 a 履修済みであること。また、ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回：不規則動詞について（1） Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lâmed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lâmed 'alep・Lâmed Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤ書等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤ書等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤ書等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。			
＜準備学習等の指示＞授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。			
＜テキスト＞Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3 rd .ed.,Oxford University Press, London, 1949.			
＜参考書・参考資料等＞ William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz , 1987. J. Payne Smith , A compendious Syriac dictionary : founded upon the Thesaurus Syriacus of R. Payne Smith, Winona Lake, Ind. : Eisenbrauns , 1998.			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」の①～④の内容を重視する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
古代オリエント史Ⅱ b		月本 昭男	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 古代オリエントの歴史と文化			
<到達目標> 古代オリエントの歴史と文化を学ぶことにより、その一隅に刻んだ古代イスラエルの歴史の理解を深める。			
<授業の概要> 2021 年度の前 3 千年紀の古代オリエント文化史に続く前 2 千年紀以降の歴史と文化に関する主な資料を紹介し、その歴史的・文化史的意味を考察する。資料の多くはパワー・ポイントを用いて紹介する。			
<履修条件> 履修条件にはしないが、古代イスラエル史および聖書ヘブライ語初修を習得していることが望ましい。			
<授業計画> 第 1 回 シュメル時代からアッカド時代へ 第 2 回 イシン・ラルサ時代 第 3 回 ハンムラビ法典とハンムラビ王朝 第 4 回 カッシート時代の歴史と文化 第 5 回 中期アッシリア時代：王権思想を中心に 第 6 回 中期バビロニア時代：「境界石」を中心に 第 7 回 アマルナ文書にみる前二千年紀後半のパレスティナ 第 8 回 新アッシリア王国の軍事遠征政策の歴史 第 9 回 新バビロニア王国の勃興とネブカドレツアル 第 1 0 回 古代メソポタミアの創成神話と旧約聖書 第 1 1 回 古代メソポタミアの洪水神話と旧約聖書 第 1 2 回 古代メソポタミアの叙事詩と旧約聖書 第 1 3 回 古代メソポタミアの詩歌と詩篇 第 1 4 回 キュロス大王とアケメネス朝ペルシア 第 1 5 回 ダレイオス 1 世とエルサレム第二神殿			
<準備学習等の指示> 準備は必要ありません。配布資料および指示した参考書にもとづく復習を心がけてください。			
<テキスト> 特に定めない。			
<参考書・参考資料等> その都度紹介するが、月本昭男（監修）『古代メソポタミアの光芒』（山川出版社、2011 年）を勧めます。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席と学期末レポート。レポートは「共通評価指標（1）」に基づき評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
聖書考古学 b	月本 昭男	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 考古資料に基づく旧約聖書の歴史と文化		
<到達目標> 聖書の理解に資する考古資料の価値と意義を習得する。		
<授業の概要> 考古資料（遺構、遺物、碑文）を紹介し、旧約聖書の歴史的・文化史的背景を考察する。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 古代オリエントのなかのイスラエル 第2回 聖書考古学の歴史概要 第3回 考古学はイスラエルの起源を解明できるか 第4回 父祖たちの物語と古代オリエントの法慣習 第5回 出エジプト伝承は考古学的に実証できるか 第6回 ヨシュア記にみるカナン征服と考古学 第7回 ダビデ・ソロモン時代をめぐる考古学研究 第8回 シャルマナセル III 世碑文とイスラエル 第9回 ティグラトピレセル碑文とイスラエル 第10回 センナケリブとユダ王国 第11回 ヘブライ語碑文①：オストラカ 第12回 ヘブライ語碑文②：シロアム碑文ほか 第13回 ヘブライ語碑文③：スカラベとスカラボイド 第14回 古代イスラエルの墓制と埋葬法 第15回 シナゴークの歴史		
<準備学習等の指示> 毎回の準備学習は必要ない。授業開始前に下に掲げる参考書を少なくとも一冊、読み通しておくこと。		
<テキスト> 特に定めない。授業はパワーポイントを用いる。		
<参考書・参考資料等> 月本昭男『目で見える聖書の時代』（日本キリスト教団出版局、第10版、2019年）、A・マザール（杉本智俊・牧野久実訳『聖書の世界の考古学』（リトン、2003年）、長谷川修一『聖書考古学―遺跡が語る史実』（中公新書、2013年）、杉本智俊『図説旧約聖書の考古学』（河出書房新社、2021年）		
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極参加と学期末レポート。レポートは「共通評価指標（1）」に基づき評価する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ		小友 聡 田中 光	<担当形態> 複数
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
<到達目標> 修士課程修了にふさわしい論文が書けるようになる。			
<授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究及び二次文献の検索を行う。			
<履修条件> 2023年9月に旧約に関する修士論文を提出する予定である者は、必ず参加すること。			
<授業計画> 第1回 導入。論文執筆の意味 第2回 課題の見いだし方 律法関係 第3回 課題の見いだし方 預言者関係 第4回 課題の見いだし方 文学関係 第5回 テキスト翻訳 律法関係 第6回 テキスト翻訳 預言者関係 第7回 テキスト翻訳 文学関係 第8回 テキストの構造解明 律法関係 第9回 テキストの構造解明 預言者関係 第10回 テキストの構造解明 文学関係 第11回 辞書、コンコルダンスの使い方 第12回 二次文献の検索方法 第13回 暫定的な文献表の作成 第14回 二次文献の使い方 第15回 方法を使いこなす			
<準備学習等の指示> 毎回割り当てられた課題を発表する準備をすること。			
<テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。			
<参考書・参考資料等> 毎回必要な文献を指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。共通評価指標（2）を用いる。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ		小友 聡 田中 光	<担当形態> 複数
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程2年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
<到達目標> 修士課程修了にふさわしい論文を執筆、完成させる。			
<授業の概要> 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。			
<履修条件> 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は必ず参加すること。			
<授業計画> 第1回 導入。論文執筆の手順 第2回 問題設定 律法関係 第3回 問題設定 預言者関係 第4回 問題設定 文学関係 第5回 研究史 律法関係 第6回 研究史 預言者関係 第7回 研究史 文学関係 第8回 主要テーマ 律法関係 第9回 主要テーマ 預言者関係 第10回 主要テーマ 文学関係 第11回 論証過程 律法関係 第12回 論証過程 預言者関係 第13回 論証過程 文学関係 第14回 結論 第15回 最終的な質疑応答			
<準備学習等の指示> 割り当てられた課題を発表できるようにしておくこと。			
<テキスト> 論文執筆者別に指示する。			
<参考書・参考資料等> 毎回必要な文献を指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。共通評価指標（2）を用いる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰ a		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネによる福音書 20：01～21:25、01：01～18 の原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
<履修条件> 新約ギリシア語原典テキスト読解力を有すること。ギリシア語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> Ⅰ. 講義を中心に 第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。 第02回 ギリシア語新約聖書本文批評の実際。 第03回 テキストの文学批評の実際。 第04回 テキストと歴史批評の実際。 Ⅱ. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に 第05回 ヨハネ20：01～10の原典釈義 第06回 ヨハネ20：11～18の原典釈義 第07回 ヨハネ20：19～23の原典釈義 第08回 ヨハネ20：24～31の原典釈義 第09回 ヨハネ21：01～08の原典釈義 第10回 ヨハネ21：09～19の原典釈義 第11回 ヨハネ21：20～25の原典釈義 第12回 ヨハネ01：01～08の原典釈義 第13回 ヨハネ01：09～13の原典釈義 第14回 ヨハネ01：14～18の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる新約聖書テキストをギリシア語文法に則して読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年 R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年 R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年 C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i> , 2003.			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰb		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネの黙示録08：01～11:06までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> Ⅰ. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1章～2章7節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。 Ⅱ. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に 第05回 黙示録06：01～06の原典釈義 第06回 黙示録08：01～05の原典釈義 第07回 黙示録08：06～13の原典釈義 第08回 黙示録09：01～06の原典釈義 第09回 黙示録09：07～12の原典釈義 第10回 黙示録09：13～16の原典釈義 第11回 黙示録09：17～21の原典釈義 第12回 黙示録10：01～07の原典釈義 第13回 黙示録10：08～11の原典釈義 第14回 黙示録11：01～06の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。レポートは共通評価指標（1）によって評価する。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅱ a		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 山上の説教を中心にマタイによる福音書の中心的メッセージを模索していきます。			
＜到達目標＞ 原典で新約聖書を読む力をつけると共に、マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになります。			
＜授業の概要＞ 特に、旧約聖書並びにユダヤ教との関連を重視しつつ、山上の垂訓の原典の正確な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていきます。			
＜履修条件＞ ギリシャ語1、2を修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）			
＜授業計画＞ 第1回 「嵐を鎮める奇跡」、「十字架」の箇所から見られるマタイの神学的特徴 第2回 「ペテロの信仰告白」の箇所の神学的特徴とマタイ的教会論 第3回 マタイ5：1～16の釈義 「幸い」とは何か 第4回 マタイ5：17～26の釈義 「律法と義」に関する問題 第5回 マタイ5：27～48の釈義 「禁止命令」について 第6回 マタイ5章の中心的用語の検討 第7回 マタイ6：1～18の釈義 「施し、祈り、断食」について 第8回 マタイ6：19～24の釈義 「富」に関して 第9回 マタイ6：25～34の釈義 「思い悩むな」について 第10回 マタイ6章の中心的用語の検討 第11回 マタイ7：1～12章の釈義 「求めなさい」について 第12回 マタイ7：13～23の釈義 「狭い門」とは 第13回 マタイ7：24～28の釈義 「家と土台」について 第14回 マタイ7章の中心的用語の検討 第15回 マタイ5～7章の構造に関する検討			
＜準備学習等の指示＞ 学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討をしてください。。			
＜テキスト＞ ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
＜参考書・参考資料等＞ LXX（70人訳ギリシャ語旧約聖書）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1）」によって評価します。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅱ b		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続き、山上の説教を中心にマタイによる福音書の中心的メッセージを模索していきます。			
＜到達目標＞ 前期の継続として原典で新約聖書を読む力をつけると共に、マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになります。			
＜授業の概要＞ 前期に引き続き、旧約聖書並びにユダヤ教との関連を重視しつつ、山上の垂訓の原典の正確な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていきます。			
＜履修条件＞ 「新約聖書原典釈義Ⅱ a」を履修済みの者。（聴講生も歓迎します。）			
＜授業計画＞ 第1回 マタイ 5～7 章の構造についての継続議論 第2回 マタイ 5～7 章全般に見られる特徴的用語の検討 第3回 マタイ 5～7 章に見られる「天」と「地」についての考察 第4回 マタイが独自に用いる「天国」と「地」との関連について 第5回 主の祈りの中心テーマ 第6回 「偽善」との戦いについての検討 第7回 マタイが独自に用いる「地名」と「地」について 第8回 マタイによる福音書全体から見た「天」と「地」についての考察 第9回 マタイ的教会論と「地」について 第10回 旧約のイザヤ書との関連 第11回 『インマヌエル・キリスト論』について 第12回 ヨシュア記と『インマヌエル・キリスト論』の関連について 第13回 ヨシュア記とマタイによる福音書の関連について 第14回 マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察 第15回 マタイ 5～7 章の中心的な神学についての考察			
＜準備学習等の指示＞ 学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討をしてください。			
＜テキスト＞ ・ Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・ “A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
＜参考書・参考資料等＞ LXX（70 人訳ギリシャ語旧約聖書）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ テキストへの積極的かつ、考察的取り組みを通して、マタイに対する理解を深められたかが、評価の基準となります。「共通評価指標（1）」によって評価します。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習 新約神学Ⅰ		中野 実	＜担当形態＞ 単数
後期・2単位		＜登録条件＞ 新約神学で修論を書く予定の学生	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。			
＜到達目標＞ 適切なテーマを選定することができ、論文を書くための技術を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 論文を書くとはどういうことかを学びつつ、各自その課題を進めていく。毎回、学生の発表を中心に進められていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの指導担当学生との個別指導も織り交ぜながら行なわれる。			
＜履修条件＞ 2023 年 9 月に修論を提出予定の学生			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 論文を書くとは？ 第3回 各自の課題、問題探し 第4回 その課題、問題に関連するテキスト探し 第5回 課題テキストについて深く学ぶ 第6回 テーマの選定、見直し、決定 第7回 研究のための方法およびツールについて 第8回 資料、先行研究探し 第9回 先行研究の学び 第10回 先行研究の学びとそこからの展開 第11回 問題設定、テーゼへ向かって 第12回 問題設定、テーゼの吟味 第13回 題名、目次作成へ向かって 第14回 議論の組み立てへ向かって 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 論文はモノログではないので、教師、学生との対話を大事にすること。			
＜テキスト＞ 必要に応じて、指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 担当者は必要に応じて、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術をみがくことなどに関して十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ		中野 実 焼山 満里子	＜担当形態＞ 複数
前期・2単位		＜登録条件＞ 新約専攻の大学院2年生	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 今年度前期末に修論を提出予定の学生のための演習。			
＜到達目標＞ 各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げるができる。			
＜授業の概要＞ 論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心となる。指導教授および参加学生の質問や意見をききつつ、論文を仕上げていく。			
＜履修条件＞ 2022年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 問題設定の点検 第3回 資料の点検 第4回 題名、目次、議論の枠組みを整える。 第5回 より明確な問題設定の獲得 第6回 （仮）序論の執筆 第7回 研究史に関する発表 第8回 研究史に基づく展開 第9回 論文のテーゼ、発表 第10回 論文のテーゼの点検 第11回 議論の組み立て 発表 第12回 議論の組み立て 点検 第13回 結論を書く 第14回 論文のフォーマットの整理、注、文献表など。 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ クラスで指示する。			
＜テキスト＞ 必要に応じて、指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの出席、課題への参加度などによって、総合的に評価する。修士論文を仕上げていく課題にどれほど積極的に取り組んでいるかが評価の指標となる。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講Ⅰa		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 聖霊論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。			
＜到達目標＞ 聖霊論について、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自ら考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 聖霊論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき聖霊論の姿を模索する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 聖霊論の論点(1) 聖霊の神性と位格性 第3回 聖霊論の論点(2) 聖霊の御業 第4回 位格としての聖霊(1) カール・バルトの場合とその問題 第5回 位格としての聖霊(2) ヴォルフハルト・パネンベルクとユルゲン・モルトマンの場合 第6回 位格としての聖霊(3) コリン・ガントンの場合 第7回 位格としての聖霊(4) その他の神学者の場合（バルコフ、ロジャース、コンガールなど） 第8回 中間総括 第9回 個人への聖霊の働き(1) バルトの場合 第10回 個人への聖霊の働き(2) モルトマン、ヴェルカー、コンガールなどの場合 第11回 個人への聖霊の働き(3) ピューリタン及びその他の神学者の場合 第12回 聖霊と教会(1) 三位一体論的教会論（ミロスラフ・ヴォルフなど） 第13回 聖霊と教会(2) スタンリー・ハワーワスの場合など 第14回 聖霊と世界 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる。			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート（4,000字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講 I b		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 創造論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、教義学の深い理解を持つことを目指す。			
＜到達目標＞ 創造論について、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自ら考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 創造論について講義する。古来からの論点を整理した上で、現代の神学者たちの取り組みを紹介し、天地創造についてどのような理解を持つべきかを検討する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 創造論の論点(1) 創造の起源、無からの創造 第3回 創造論の論点(2) 三位一体と創造、人間論 第4回 創造論の論点(3) 創造と摂理、救済 第5回 創造の起源について（バルト、パネンベルク、ティリッヒら） 第6回 三位一体論的創造論(1) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第7回 三位一体論的創造論(2) ユルゲン・モルトマンの場合 第8回 三位一体論的創造論(3) コリン・ガントンの場合、その他 第9回 中間総括 第10回 創造と救済(1) 閉じられた創造論と開かれた創造論 第11回 創造と救済(2) 様々な神学者の場合 第12回 創造と人間(1) パネンベルク、モルトマンらの場合 第13回 創造と人間(2) ロバート・ジェンソン、コリン・ガントンらの場合 第14回 創造論の現代的課題 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる。			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート（4,000字程度）によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)に基づいて評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特研Ⅰ		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 2001 年以降、つまり、今世紀に入ってから現れた組織神学関係の書物、あるいは、哲学や宗教学等の書物を精読し、内容を批判的に吟味しながら、組織神学的思考力を鍛える。			
<到達目標> ①文献の内容について深い理解を得る。②その内容を思想史的文脈や現代の課題との関連の中で考えられるようになる。③文献を批判的に読むことで、神学的な主体性を獲得する。			
<授業の概要> 2015 年に出版されたもので、過去数十年の三位一体論の議論と批判的に対峙しようとしている K. Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 から、第一部と第二部を読み、議論を重ねながら、批判的に内容の理解を深めていく。			
<履修条件> 毎回 10 頁ほどの英語のテキストを精確に読む能力を有していること。内容についてよく考えて出席すること。履修する場合は、最後まで投げ出さないこと。一回の発表に 3,000 字程度のレジュメを用意して貰うが、内容的にも高度なものを求めるので、最低 5 名の履修者（登録者）が得られない場合には開講しない。			
<授業計画> 1. オリエンテーション（履修者の英語力の確認を含む。辞書持参で出席すること。） 2. テキスト、pp. xi-xxv. (Preface) 3. テキスト、pp. 1-9. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God／1) 4. テキスト、pp. 10-22. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God／2) 5. テキスト、pp. 23-30. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection／1) 6. テキスト、pp. 30-45. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection／2) 7. テキスト、pp. 47-52. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／1) 8. テキスト、pp. 52-66. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／2) 9. テキスト、pp. 66-77. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／3) 10. テキスト、pp. 77-93. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／4) 11. テキスト、pp. 93-106. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／5) 12. テキスト、pp. 106-115. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／6) 13. テキスト、pp. 115-131. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／7) 14. テキスト、pp. 131-147. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord’s Hiddenness: His Omnipresence／8) 15. まとめ			
<準備学習等の指示> テキストに事前に目を通すことは大前提であるが、さらに内容や関連事項についても自分で調べ、考えてくることが重要である。教室が、担当者（教員）と学生とで対等に議論する場になることが期待されている。			
<テキスト> 担当者が用意する Katherine Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 からのプリント。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表・授業への参加度・期末レポート（本文 8,000 字以上）の総合による。共通評価指標（1）に準拠して評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅰa		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ W. パネンベルクの『組織神学第三巻』を取り上げる。前期のテーマは聖霊論、教会論、サクラメント論になる。			
＜到達目標＞ 現代神学の代表者W. パネンベルクと対話しつつ、聖霊論、教会論、サクラメント論の理解を深める。			
＜授業の概要＞ 担当者を決め、順番に該当箇所を要約し、問題提起的にコメントする。			
＜履修条件＞ 組織神学専攻でなくてもよい。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 テキストの 19～45 頁 第3回 テキストの 45～64 頁 第4回 テキストの 64～84 頁 第5回 テキストの 85～111 頁 第6回 テキストの 113～136 頁 第7回 テキストの 137～159 頁 第8回 テキストの 160～189 頁 第9回 テキストの 190～214 頁 第10回 テキストの 215～240 頁 第11回 テキストの 240～263 頁 第12回 テキストの 264～290 頁 第13回 テキストの 290～313 頁 第14回 テキストの 313～340 頁 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 担当者以外の者も前もって該当箇所に目を通し、当日の議論に積極的に加わること。			
＜テキスト＞ W.パネンベルク『組織神学第三巻』佐々木勝彦訳、新教出版社、2021 年。自分で購入してもよいが、高価なため部分的にコピーを用意してもよい。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 共通評価指標(1)に基づいて評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係		
組織神学演習Ⅰb	芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 前期に引き続き、W.パネンベルクの『組織神学第三巻』を取り上げる。後期のテーマは sacrament論、教会職務論、終末論になる。		
<到達目標> 現代神学の代表者W.パネンベルクと対話しつつ、 sacrament論、教会職務論、終末論の理解を深める。		
<授業の概要> 担当者を決め、順番に該当箇所を要約し、問題提起的にコメントする。		
<履修条件> 組織神学専攻でなくてもよい。		
<授業計画> 第1回 テキストの 340～362 頁 第2回 テキストの 362～386 頁 第3回 テキストの 387～405 頁 第4回 テキストの 406～427 頁 第5回 テキストの 428～445 頁 第6回 テキストの 447～474 頁 第7回 テキストの 474～494 頁 第8回 テキストの 495～518 頁 第9回 テキストの 519～542 頁 第10回 テキストの 543～564 頁 第11回 テキストの 565～587 頁 第12回 テキストの 588～607 頁 第13回 テキストの 607～630 頁 第14回 テキストの 631～656 頁 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 担当者以外の者も前もって該当箇所に目を通し、当日の議論に積極的に加わること。		
<テキスト> W.パネンベルク『組織神学第三巻』佐々木勝彦訳、新教出版社、2021 年。自分で購入してもよいが、高価なため部分的にコピーを用意してもよい。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 共通評価指標(1)に基づいて評価する。		

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。			
<到達目標> ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。			
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から和解論（第一部）の罪論にあたる部分（60節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
<履修条件> 難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、3～28頁（60節 1. 神の御子の従順の鏡に映った人間の罪①） 第3回 同、28～53頁（同②） 第4回 同、53～72頁（同③） 第5回 同、72～82頁（同④） 第6回 同、82～101頁（同⑤） 第7回 同、102～120頁（2. 人間の傲慢①） 第8回 同、120～136頁（同②） 第9回 同、136～159頁（同③） 第10回 同、159～181頁（同④） 第11回 同、181～199頁（同⑤） 第12回 同、200～216頁（同⑥） 第13回 同、217～242頁（3. 人間の堕落①） 第14回 同、242～259頁（同②） 第15回 同、259～282頁（同③）			
<準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。			
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅰ／3 僕としての主イエス・キリスト 中』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜、紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度（30％）および小課題（70％）による。共通評価指標（1）に準拠して評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ b		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期と同じ。			
＜到達目標＞ 前期と同じ。			
＜授業の概要＞ バルトの『教会教義学』から和解論（第一部）の義認論（61 節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
＜履修条件＞ 前期と同じ。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション、テキスト、283～294 頁（61 節 1. 義認論の問題①） 第2回 テキスト、294～309 頁（同②） 第3回 同、310～326 頁（2. 神の審き①） 第4回 同、327～347 頁（同②） 第5回 同、347～365 頁（同③） 第6回 同、365～380 頁（同④） 第7回 同、381～396 頁（3. 人間の赦免①） 第8回 同、396～404 頁（同②） 第9回 同、404～423 頁（同③） 第10回 同、423～441 頁（同④） 第11回 同、441～453 頁（同⑤） 第12回 同、454～464 頁（4. ただ信仰による義認①） 第13回 同、465～488 頁（同②） 第14回 同、488～505 頁（同③） 第15回 同、505～516 頁（同④）			
＜準備学習等の指示＞ 前期と同じ。			
＜テキスト＞ 前期と同じ。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜、紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度（30%）および小課題（70%）による。共通評価指標（1）に準拠して評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係		
信条学	芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
＜授業のテーマ＞ 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、直接信条の神学を学ぶ。		
＜到達目標＞ 授業の前半で、まず古代教会の基本信条、次いで宗教改革期以後の代表的な信条の特色を把握する。授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を理解する。		
＜授業の概要＞ 授業前半は資料を配付し、講義を行う。後半は担当者を決め、教義学の主題ごとに要約し、コメントしてもらう。		
＜履修条件＞ 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。		
＜授業計画＞ 第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。 第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。 第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。 第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。 第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。 第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。 第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。 第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。 第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。 第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。 第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。 第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。 第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。 第14回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。 第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。		
＜準備学習等の指示＞ 教室で渡す資料をよく整理し、保存しておくこと。担当者は分担してテキストをよく読むこと。		
＜テキスト＞ J・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。		
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて従業の中で指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 共通評価指標（1）に基づいて評価する。学期末に自分の発表した箇所を基にレポートを提出する。		

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。			
＜到達目標＞ ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。			
＜授業の概要＞ 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。			
＜履修条件＞ 2023 年度に修士論文提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件 第2回 発表①：各自の論文の主題について 第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握 第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する 第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える 第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて 第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討 第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ 第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1） 第10回 発表③：同（2） 第11回 発表④：内容の構想について（1） 第12回 発表⑤：内容の構想について（2） 第13回 発表⑥：内容の構想について（3） 第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1） 第15回 発表⑧：同（2）			
＜準備学習等の指示＞ 授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 泉忠司、『90 分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度および発表による。主に共通評価指標（2）の①と②によって評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。			
＜到達目標＞ 修士論文を完成・提出すること。			
＜授業の概要＞ 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。			
＜履修条件＞ 2022年9月に狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認 第2回 各自の論文の主題と文献について① 第3回 各自の論文の主題と文献について② 第4回 各自の論文の主題と文献について③ 第5回 主要文献の読書報告① 第6回 主要文献の読書報告② 第7回 主要文献の読書報告③ 第8回 二次文献から学んだことについての報告① 第9回 二次文献から学んだことについての報告② 第10回 二次文献から学んだことについての報告③ 第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について① 第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について② 第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③ 第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④ 第15回 形式面の確認・提出の要領について			
＜準備学習等の指示＞ 最大限の時間と能力とを傾注すること。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド——大学生・大学院生のための自己点検法 29』（大修館書店、2019年）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表による。修士論文用の共通評価指標（2）を参照して評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅰa		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学分野専攻者の履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
＜到達目標＞ 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
＜授業の概要＞ 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
＜履修条件＞ 特にない。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。履修者との導入討議 第2回 発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回 資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」他。） 第13回 資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革一長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。			
＜準備学習等の指示＞ 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
＜テキスト＞ 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。その他は、授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習 I b		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 前期に同じ。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務ー中世・宗教改革から現代まで」			
<到達目標> 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
<授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
<履修条件> 特にない。			
<授業計画> 第1回 コース紹介。履修者との導入討議。 第2回 発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回 資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） プューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」） 第13回 資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革ー長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。			
<準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務ー教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。他は授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期に同じ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅰ a		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年で履修することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」。			
＜到達目標＞ 履修者が、英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17世紀～20世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学にかんする第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深めることを目指す。以上の目標を前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
＜授業の概要＞ 前期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を提起し、17～19世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズム移植、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について、講義と史料分析を行う。			
＜履修条件＞ 現代・近代プロテスタント神学思想の基本的な知識、あるいは英米教会史・神学思想史などへのある程度の関心が必要である。			
＜授業計画＞ 第1回：コース紹介。導入講義：日本の「福音主義」「福音主義の歴史」研究の批評(佐藤敏、古屋、青木他) 第2回：講義（一）：アメリカ教会史と神学思想史論の吟味：F. ボンヘッフアー、W. G. マックラクリン他。 第3回：史料分析（一）：17～18世紀「ピューリタン大覚醒」（T. フッカー）と英国メソジズム（ウェスレー）。 第4回：講義（二）：18世紀北米における「第一次大覚醒運動」（1730～1760）植民地時代の三大教派の出現。 第5回：史料分析（二）：J. エドワーズ（1）：「[ニューイングランド信仰復興の忠実な報告] 他。 第6回：史料分析（三）：J. エドワーズ（2）：「信仰復興についての幾つかの考察」 他。 第7回：講義（三）：18世紀北米のメソジズム神学、信仰復興、教会形成：「宗教箇条」、A. クラーク等。 第8回：講義（四）：19世紀前半の「第二次大覚醒運動」（1800～1830）開拓時代の三大教派成長。 第9回：史料分析（四）：19世紀前半の新派カルヴァン主義神学の誕生：N. W. テイラー、L. ビーチャー等。 第10回：史料分析（五）：C. G. フィニー（1）：回心についての説教、「[組織神学] から。 第11回：史料分析（六）：C. G. フィニー(2)：「宗教の復興とは何か？」 第12回：史料分析（七）：長老派内の新派カルヴァン主義：A. パーンズ 「救いの道」 第13回：史料分析（五）：メソジストの神学、信仰復興、教会形成：P. カートライト、D. D. ウィードン。 第14回：講義（五）：幕末開国期日本：改革派-長老派-会衆派型およびメソジスト型「二つの福音」問題 第15回：講義（六）：若き植村正久、本多庸一：福音主義神学、信仰復興、教会形成。FD 実施。			
＜準備学習等の指示＞ テキストの予習と復習が大切である。そのために、とくに予習に力を入れ、授業中の議論を準備すること。			
＜テキスト＞ ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布) . ②D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005. (部分的にコピー資料として配布)。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業中に追って紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成し、提出する。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講 I b		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> 通年で履修することが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」			
<到達目標> 英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める以上の目標を、前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
<授業の概要> 後期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、19 世紀後半～20 世紀後半（1865-2010）までの米日の第三次、第四次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。			
<履修条件> 前期に同じ。			
<授業計画> 第 1 回：コースの紹介。講義（一）「マックラクリンの北米大覚醒運動史」のおさらい 第 2 回： 講義（二）：19 世紀後半の北米神学の諸相：南北戦争以後の北米の社会と宗教の変貌（T.L. スミス） 第 3 回：史料分析（一）：19 世紀後半の「第三次大覚醒運動」（1870～1920）「都市の信仰復興」について 第 4 回：史料分析（二）：D. L. ムーディー（1）：ムーディーの諸説教にみる福音主義神学と教会 第 5 回：史料分析（三）：D.L. ムーディー（2）：彼の信仰復興論「教会に行かぬ人に福音をどう届けるか？」 第 6 回：講義（三）：20 世紀初頭の日本の「大挙伝道」および「神の国」運動：本多庸一、植村正久、賀川豊彦 第 7 回：史料分析（四）：20 世紀前半の第一次世界大戦後の北米の「近代主義」対「根本主義」論争 第 8 回：講義（四）：A. J. シンプソン：『四重の福音』；A. J. ゴードン『み霊の務め』 第 9 回：史料分析（五）：日本における神学の変貌：中田重治のホーリネス神学と逢坂元吉郎 の高教会神学 第 10 回：講義（五）：20 世紀後半の「第四次大覚醒〔戦後信仰復興〕運動」（1950～1990?） 第 11 回：史料分析（六）：ビリー・グラハム（1）：略歴と神学諸テーマ（啓示、創造と墮罪、贖罪） 第 12 回：史料分析（七）：ビリー・グラハム（2）：諸テーマ（救済、教会、説教と聖礼典、終末論） 第 13 回：講義（六）：第二次世界大戦後日本における「戦後信仰復興運動」の神学、信仰復興、教会形成。 第 14 回：講義（七）：1980 年代後の英米日の福音主義諸派の動向：北米の「宗教的右派」、「福音派」の動向。 第 15 回：総合討論：通年の学びからみた「福音主義」とその歴史の総括。FD 実施。			
<準備学習等の指示> 前期に同じ。			
<テキスト> ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布) . ② D.A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005.（部分的にコピー資料として配布）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、教員が追って指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 後期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 歴史神学専攻者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の研究と論文作成の技法を習得する。			
＜到達目標＞ 履修者は、先ず学術論文の書き方の原則を学ぶ。その後、各自の研究テーマに関する第一次、第二次資料の区別や、読み方、扱い方、そして歴史論文のまとめ方の技法を学習することを目標とする。			
＜授業の概要＞ 後期のセミナーでは、前半は下記のテキストを読み、研究や論文作成の技法を学ぶ。後半では、各自の研究テーマについて中間報告を複数回行い、学期末には研究レポートを作成、提出する。			
＜履修条件＞ 歴史神学専攻の大学院修士一年次生を対象とする。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。各自の研究テーマの紹介。 第2回 導入講義「歴史神学とはなにか？」 第3回 発表（一） 澤田『論文の書き方』第一章 第4回 発表（二） 上記テキスト、第二章 第5回 発表（三） 同上、第三章 第6回 発表（四） 同上、第四章 第7回 発表（五） 同上、第五章 第8回 発表（六） 同上、第六章 第9回 発表（七） 同上、第七章 第10回 発表（八） 同上、第八章 第11回 中間発表（一） 一～二名 第12回 同上（二） 一～二名 第13回 同上（三） 一～二名 第14回 同上（四） 一～二名 第15回 総合討論。			
＜準備学習等の指示＞ テキストは予め読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』、講談社学術文庫、2004年。（コピーテキストを配布する。）			
＜参考書・参考資料等＞ J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』、岩波書店、2006年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表、討論などの内容その他で評価を与える。「共通評価指標（2）」によって評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 大学院修士課程二年次の学生に開講される修士論文準備コース。			
＜到達目標＞ 履修者は、先ず学術論文の書き方の原則を学ぶ。その後、各自の研究テーマに関する第一次、第二次資料の区別や、読み方、扱い方、そして歴史論文のまとめ方の技法を学習することを目標とする。			
＜授業の概要＞ 前半では、下記の最新の歴史研究入門書を読む。その後修士論文提出予定者が各自のテーマにもとづき、二回修士論文の中間発表を行う。教師と参加者は、質疑応答やコメントを通して、各自の準備を助ける。			
＜履修条件＞ 原則として歴史神学専攻で修士課程二年次の学生の履修を求める。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介と発表の決定。 第2回 導入講義「歴史神学の研究視点」 第3回 歴史学入門テキスト発表（一）、 『一冊でわかる 歴史』 1, 2章 第4回 同上（二）、同上書 3, 4章 第5回 同上（三）、同上書 5, 6章 第6回 同上（四）、同上書、7章と全体討論。 第7回 第一次発表（一） 二名。とくに論文のテーマや構成、方法論、参考文献など。 第8回 同上（二） 二名発表。 第9回 同上（三） 二名発表。 第10回 同上（四）一～二名発表。 第11回 第二次発表（一） 二名発表。 第12回 同上（二） 二名発表。 第13回 同上（三） 二名発表。 第14回 同上（四） 一～二名発表。 第15回 総合討論。			
＜準備学習等の指示＞ テキストは予め読んで意見をまとめよ。			
＜テキスト＞ J.H.アーノルド『一冊でわかる 歴史』岩波書店、2006年。（コピー・テキストを配布する。）			
＜参考書・参考資料等＞ 後に授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加態度、出席、発表の内容など総合して評価を与える。「共通評価指標（2）」によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特講 b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 福音主義的キリスト教教育学の代表的な文献を読み、今日の教会における教育に生かすことを目指す。		
<到達目標> 神学書をクリティカルに読みこなす力、神学的に考える力を身につける。キリスト教教育学の根本問題を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。		
<授業の概要> キリスト教教育学の重要なテキストを精読し、理解を深め、議論することを通して、今日の教会教育のあり方を考察する。		
<履修条件> 特になし		
 <授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教会の現状 第3回 問題－信仰義認に基づく教会のわざ 第4回 聖書神学における新しい啓示理解 第5回 コミュニケーションの媒体としての教会生活 第6回 聖書の人間観 第7回 新生の提示 第8回 罪の本質を認識する責任 第9回 新生の現実を確信する責任 第10回 新しい契約の倫理 第11回 新しい契約における自由の堅持 第12回 新しい契約の生活教育 第13回 信仰による歴史解釈 第14回 聖書の歴史観の意義 第15回 教会の使命遂行の責任		
<準備学習等の指示> 事前にテキストに目を通しておくこと。他は講義内に指示する。		
<テキスト> ヘンダーライト（山内一郎訳）『教会教育の神学－赦しと希望』、日本基督教団出版局、1968年。担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、議論への貢献度を総合的に評価する。共通評価指標（1）①、②および③を重視する。		

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 前期はハンス・ヨアヒム・イーヴァント『説教学講義』をテキストにし、説教学について学ぶ。			
<到達目標> テキストと対話しつつ、「説教とは何か」という根本的な問いに対する自分なりの答えを得ること。			
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション イーヴァントと説教黙想 第2回 第1章（26 頁 3 行目まで） 第3回 第1章の続き（26 頁 4 行目以下） 第4回 第2章（54 頁まで） 第5回 第2章の続き（70 頁まで） 第6回 第2章の続き（87 頁 7 行目まで） 第7回 第2章の続き（87 頁 8 行目以下） 第8回 第3章 第9回 第4章 第10回 第5章 第11回 第6章（153 頁まで） 第12回 第6章（154 頁以下） 第13回 グレツィンガーの解説 第14回 イーヴァントの説教論 第15回 「説教とは何か」を考え直す			
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
<テキスト> ハンス・ヨアヒム・イーヴァント『説教学講義（イーヴァント著作選 1）』新教出版社、2009 年			
<参考書・参考資料等> ボンヘッファー『説教と牧会』新教出版社、1975 年（絶版）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の全体による。			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 後期は越川弘英編『礼拝改革試論』をテキストにし、わたしたちの礼拝について考察する。			
<到達目標> テキストの問題提起を受け止め、実際の礼拝に基づきつつ、礼拝への理解を深めること。			
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論を行う。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 礼拝学的思考とは何か 第2回 はじめに 礼拝とは何か 第3回 第1章 「簡素な説教礼拝」 第4回 第2章 「簡素な説教礼拝」の分析と評価 第5回 第3章 礼拝の構成と流れ 第6回 第4章 礼拝の「主題」と教会暦 第7回 第5章 聖餐の意味と主題 第8回 第6章 聖餐の式順と会衆参与 第9回 第7章 聖餐の実践にかかわる諸課題 第10回 第8章 礼拝を学ぶこと、変わること、創ること 第11回 第9章 「礼拝の当事者意識」について 第12回 第10章 礼拝への会衆参与の実践 第13回 第11章 礼拝の評価と反省 第14回 むすび 「聖なる戯れとしての礼拝」 第15回 わたしたちの礼拝について考える			
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
<テキスト> 越川弘英編著『礼拝改革試論——みんなで礼拝を創るために』キリスト新聞社、2019年			
<参考書・参考資料等> 越川弘英『今、礼拝を考える——ドラマ・リタジー・共同体（新装増補版）』キリスト新聞社、2020年			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の全体による。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 a	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> キリスト教的<人格>教育		
<到達目標> 人間形成として人格教育を一般教育学的に概観した後、神学的に把握することを目的とする。		
<授業の概要> 戦前の教育勅語を排し、教育基本法に基づく新教育が一斉に始まったが、どのキリスト教学校も自らの特色ある教育の使命として、キリスト教精神によってこそ真の人格教育を遂行し、公教育に貢献し得ることを掲げてきた。では、それはどのように理論構築され、実践されてきたのであろうか。今回は、この問題をめぐる宗教教育学的な考察を試みる。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 一般教育学的理論 第2回 近代の発端としての人格的な宗教と教育（シュライエルマッハーとルターを中心に） （第3回から14回まで受講者が発表し、討論とコメントをする） 第3回 「神の像」概念に基づく教育的展開（モルトマンの創造論より）ーその1 第4回 「神の像」概念に基づく教育的展開（モルトマンの創造論より）ーその2 第5回 「神の像」としての人間形成の問題（ブルンナーとバルトの神学的人間論より）ーその1 第6回 「神の像」としての人間形成の問題（ブルンナーとバルトの神学的人間論より）ーその2 第7回 「神の像」における自己同一性・人格・自由を巡ってーその1 第8回 「神の像」における自己同一性・人格・自由を巡ってーその2 第9回 「キリスト教的人間形成と教育」ーその1 第10回 「キリスト教的人間形成と教育」ーその2 第11回 国家と宗教教育（南原繁の政治教育思想から）ーその1 第12回 国家と宗教教育（南原繁の政治教育思想から）ーその2 第13回 日本における道徳と宗教の教育（田中耕太郎の場合）ーその1 第14回 日本における道徳と宗教の教育（田中耕太郎の場合）ーその2 第15回 全体的反省と総括		
<準備学習等の指示> 全員、事前にテキストの当該箇所に目を通してディスカッションできる備えをする。		
<テキスト> 朴 憲郁、『現代キリスト教教育学研究ー神学と教育の間でー』、日本キリスト教団出版局、2020年8月		
<参考書・参考資料等> 授業の中で随時紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、討論への参加度によって評価する。 2/3以上の授業出席者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。		

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 b	朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 教会教育の諸相		
<到達目標> 告白的共同体である教会の教育的職務を正しく把握することを目指す。		
<授業の概要> 教会に委ねられた三つの職務の一つであるディダケーの諸局面の内、児童礼拝（教会学校）と説教について学び、次に北米における教会教育論を代表的な宗教教育学者から学び、最後に「キリストの体」への入信儀礼である洗礼・堅信を巡る教会教育の歴史的・実践神学的な考察をする。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 教会教育学の出現とその特性ーその1 第2回 教会教育学の出現とその特性ーその2 第3回 教会に仕える児童礼拝とその説教ーその1 第4回 教会に仕える児童礼拝とその説教ーその2 第5回 北米における教会教育論（J. H. ウェスターホフの場合）ーその1 第6回 北米における教会教育論（J. H. ウェスターホフの場合）ーその2 第7回 北米における教会教育論（J. H. ウェスターホフの場合）ーその3 第8回 北米における教会教育論（Ch. R. フォスターの場合）ーその1 第9回 北米における教会教育論（Ch. R. フォスターの場合）ーその2 第10回 受洗志願者教育の意義ー日本の教会の文脈において 第11回 洗礼・堅信を巡る教会教育（歴史的考察）ーその1 第12回 洗礼・堅信を巡る教会教育（歴史的考察）ーその2 第13回 洗礼・堅信を巡る教会教育（実践神学的考察）ーその1 第14回 洗礼・堅信を巡る教会教育（実践神学的考察）ーその2 第15回 全体的反省と総括		
<準備学習等の指示> 全員、事前にテキストの当該箇所に通してディスカッションできる備えをする。		
<テキスト> 朴 憲郁、『現代キリスト教教育学研究ー神学と教育の間でー』、日本キリスト教団出版局、2020年8月 J. H. ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』ー教会教育の新しい可能性、新教出版社、1998年(2版) J. L. シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』、第3章:Ch. R. フォスター、「キリスト教教育と信仰共同体」、新教出版社、1987年		
<参考書・参考資料等> 授業の中で随時紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、討論への参加度によって評価する。 2/3以上の授業出席者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。		

組織神学専攻・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
＜到達目標＞ 自分の牧会者像を明確にする。		
＜授業の概要＞ 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
＜履修条件＞ 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
＜授業計画＞ ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 <		

組織神学専攻・実践神学関係		
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。 講義は登録者 2 人以上から 6 人未満で成立する。		
<授業計画> ＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 ＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 ＊各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。 第 1 回から第 15 回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 a		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 日本伝道の課題について歴史的な概観を踏まえつつ、テーマごとに考察を深め、共に実践的な作業をする。			
<到達目標> 伝道のストラテジーを意識し、現代人へのメッセージを紡ぎ出す発信力を身につける。			
<授業の概要> 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それをめぐってオープン・ディスカッションをする。その後、手紙やトラクト、ホームページ等のアピール文を作成し、批評しあい、共有する双方向授業を行う。			
<履修条件> 特に専攻にこだわらない。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：二階建論、日本人の共同幻想 第2回 戦後のセキュラリズム(1) 無宗教的世俗化 第3回 戦後のセキュラリズム(2) 世俗的疑似宗教化 第4回 功利的個人主義と聖書のナラティヴ 第5回 使徒的共同体の形成、都市と地方、メディア支配の時代 第6回 教育を通しての伝道 第7回 熟年層への伝道、試練と試み 第8回 高齢者への伝道 第9回 本地垂迹説とパウロの伝道、多元主義と特定主義 第10回 底流としてのアニミズム、自然主義 第11回 平安密教系の加持祈祷、俗信と創造信仰 第12回 鎌倉浄土系の彼岸往生、祖先崇拜と終末論、死と希望 第13回 鎌倉禅仏教系の無の思想、仏教とキリスト教 第14回 明治のナショナリズム、現代のナショナリズムとグローバリズム 第15回 総括			
<準備学習等の指示> プレゼンテーションを踏まえ、手紙や修養会レジュメ、黙想など、短い文章をホームワークとして作成する。			
<テキスト> 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。			
<参考書・参考資料等> 毎回レジュメを用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 普段のホームワークが重要。学期末のレポート提出はない。共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 日本伝道の課題について歴史的な概観を踏まえつつ、テーマごとに考察を深め、共に実践的な作業をする。			
<到達目標> 伝道のストラテジーを意識し、現代人へのメッセージを紡ぎ出す発信力を身につける。			
<授業の概要> 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それをめぐってオープン・ディスカッションをする。その後、手紙やトラクト、ホームページ等のアピール文を作成し、批評しあい、共有する双方向授業を行う。			
<履修条件> 特に専攻にこだわらない。			
<授業計画> 第1回 福音的公同教会の伝道力 第2回 現代における救済概念の変質 第3回 罪と疎外 第4回 救済の語りの諸系譜(1) 犠牲のモチーフ a 第5回 犠牲のモチーフ b 第6回 救済の語りの諸系譜(2) 贖いのモチーフ a 第7回 贖いのモチーフ b 第8回 救済の語りの諸系譜(3) 償いのモチーフ a 第9回 償いのモチーフ b 第10回 救済の語りの諸系譜(4) 裁きのモチーフ a 第11回 裁きのモチーフ b 第12回 信仰の言語 第13回 愛の言語 第14回 希望の言語 第15回 総括			
<準備学習等の指示> プレゼンテーションを踏まえ、現代人にアピールする神学的トラクトの文章をホームワークとして作成する。			
<テキスト> 拙著『救済の物語』日本キリスト教団出版局、1997年。			
<参考書・参考資料等> 毎回レジュメを用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 普段のホームワークが重要。学期末のレポート提出はない。共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
<到達目標> 東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。			
<履修条件> 特にない			
<授業計画> 1. 伝道論（宣教学）とは何か（講義） 2. 伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学（講義） (以下、3から14まで発表と討議、コメント) 3. 景教の東方伝道、韓国のキリスト教（初期カトリック史） 4. 韓国のキリスト教（プロテスタント史） 5. 中国のキリスト教（初期カトリック史） 6. 中国のキリスト教（プロテスタント史） 7. 台湾のキリスト教（16世紀～18世紀） 8. 台湾のキリスト教（19世紀～現代） 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. 総括			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
後期・ 2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 南方アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
＜到達目標＞ 南方アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
＜授業の概要＞ アジアのキリスト教について解説し、その特質を把握した後、前期に続いて南方広域アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方をも自覚的に反省する素材となることを願う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 1. アジアのキリスト教の特色と課題 2. アジアのキリスト教における伝道論 (以下、3～14まで発表と討議、コメント) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 5. インドネシアのキリスト教（プロテスタント宣教） 6. インドのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 7. インドのキリスト教（プロテスタント宣教） 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して（講義）			
＜準備学習等の指示＞ 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
＜テキスト＞ 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991 年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985 年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000 字以上）などによって評価する。 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅰ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。			
＜到達目標＞ 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。			
＜授業の概要＞ 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 説教と聖書、説教テキストの朗読 第2回 黙想とは何か 第3回 説教学の課題 課題①第一黙想の提出 第4回 釈義と説教準備 第5回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か 第6回 説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題 課題②釈義の提出 第7回 説教黙想とは何か 第8回 釈義と教理、説教と教義学 第9回 説教における説教者 課題③説教黙想の提出 第10回 会衆をめぐる黙想 第11回 キリストの物語とわたしたちの生活 第12回 説教と救済史、終末をめぐる黙想 課題④第二の説教黙想の提出 第13回 説教の構造と構成 第14回 説教の始め方と終わり方 第15回 説教の演述 課題⑤説教原稿の提出			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。			
＜テキスト＞ 聖書			
＜参考書・参考資料等＞ R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については、テーマごとに教室で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅱ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教学の基本を学び、会衆席の説教学として実際になされた説教を分析する方法を身につける。			
＜到達目標＞ 多様な説教に触れて説教理解を拡大し、説教を享受する力を磨くこと。			
＜授業の概要＞ 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 会衆席の説教学 第2回 説教分析と説教分析論 第3回 分析（1）植村正久の説教を読む 第4回 分析（2）竹森満佐一の説教を読む 第5回 分析（3）加藤常昭の説教を読む 第6回 分析（4）ルターの説教を読む 第7回 分析（5）カルヴァンの説教を読む 第8回 分析（6）マルティン・ルーサー・キングの説教を読む 第9回 分析（7）バーバラ・ブラウン・テイラーの説教を読む 第10回 分析（8）ウィリアム・ウィリモンの説教を読む 第11回 分析（9）カール・バルトの説教を読む 第12回 分析（10）ディートリヒ・ボンヘッファーの説教を読む 第13回 分析（11）ルドルフ・ボーレンの説教を読む 第14回 分析（12）ヴァルター・リュティの説教を読む 第15回 説教の研鑽 ＊取り上げる説教を仮に挙げているが、実際には、受講者自身の説教、もしくは受講者が希望する説教を取り上げる。			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻の通読を続けること。毎回配布される説教を十分読んで準備すること。			
＜テキスト＞ 授業時に、次回読む説教をプリントにして配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅲ		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験する。			
<到達目標> 説教者として立つための基本を身に着ける。また相互に説教批評を行い、説教者としての自己吟味の能力をも養う。			
<授業の概要> 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、実際にチャペルで説教する。			
<履修条件> 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。			
<授業計画> 第１回 説教とは何かを考えながら、テキストの釈義、黙想、構成について考察する。 第２回 マタイによる福音書 １８：２１－３５ 第３回 マルコによる福音書 ９：１４－２９ 第４回 ルカによる福音書 １０：３８－４２ 第５回 ヨハネによる福音書 ７：５３－８：１１ 第６回 ローマの信徒への手紙 １２：１－２ 第７回 コリントの信徒への手紙二 １２：１－１０ 第８回 コロサイの信徒への手紙 ３：１－１１ 第９回 ペトロの手紙一 ２：１－１０ 第１０回 中間的考察（教職セミナー） 第１１回 申命記 ７：６－８ 第１２回 詩編 １２１：１－８ 第１３回 イザヤ書 ５５：１－７ 第１４回 エゼキエル書 ３６：２５－３６ 第１５回 総括			
<準備学習等の指示> 担当箇所の準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、共に学び合うこと。			
<テキスト> 新共同訳聖書			
<参考書・参考資料等> 該当箇所の注解書、黙想集、説教集			
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教の内容と語り方全体が問われる。またコメンテーターとしての説教批評も重視される。共通評価指標（１）に基づいて評価する。			

実践神学研修課程		
礼拝学演習	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。		
<到達目標> 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。		
<授業の概要> 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書における礼拝 第3回 宗教改革の礼拝 第4回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第5回 現代の礼拝、礼拝改革 第6回 礼拝式と祈祷、祝祷、司式の役割 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 献金・奉献、礼拝奉仕 第9回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第10回 聖餐礼典 第11回 結婚式・婚約式 第12回 葬儀 第13回 礼拝堂、礼拝堂の使用 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝、学校礼拝		
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じて教室で指示または配布する。		
<参考書・参考資料等> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年。 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド）。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①と③を重視する。		

実践神学研修課程			
牧会学演習		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。			
＜到達目標＞ さまざまな牧会の場面において、ふさわしい対応ができる基礎を得ること。ただ一つの正解があるわけではなく、その都度の対応が求められるが、それを神学的に反省する力を身につけること。			
＜授業の概要＞ 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 牧師学としての実践神学 第２回 召命と准允・按手、「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第３回 教会でのふるまい、教会での人間関係 第４回 告解・面談・訪問 第５回 結婚と離婚、同性愛 第６回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第７回 病者の牧会、病床訪問 第８回 精神障がい者の牧会、牧会カウンセリング 第９回 高齢者の牧会 第１０回 葬儀とその周辺 第１１回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第１２回 聖餐と牧会 第１３回 教会戒規 第１４回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第１５回 全体教会と個教会、教会の制度、教会共同体の形成			
＜準備学習等の指示＞ 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。			
＜テキスト＞ 必要に応じて教室で指示または配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド）。 ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年。 その他については第１回の授業時にテーマごとに紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①と③を重視する。			

実践神学研修課程			
総合特別講義		小泉 健	<担当形態> オムニバス
後期・4単位		<登録条件> 修士論文を提出し、2023 年 4 月に教会・学校に赴任する意志の明確な者	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。			
<到達目標> 牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用していくための基礎を身につける。			
<授業の概要> それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。			
<履修条件> これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。			
<授業計画> 第1回、第2回：宮本義弘 「部落解放とキリスト教」 第3回、第4回：落合建仁 「日本基督教団史Ⅰ（日本基督教団成立前）、（日本基督教団成立後）」 第5回、第6回：小林光 「教会付属幼稚園・保育園(所) の諸問題」 第7回、第8回：棚村重行 「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第9回、第10回： 齋藤篤 「キリスト教系諸宗団の問題」 第11回、第12回：増田将平 「青年伝道」 第13回、第14回：洪性完 「在日コリアン問題」 第15回、第16回：朴憲郁 「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第17回、第18回：山崎ハコネ 「高齢者ケアと牧会」 第19回、第20回：長山信夫 「日本基督教団史Ⅱ（教団史と紛争史の視点）、（教団紛争とは何であったか?）」 第21回、第22回：小島誠志 「地方伝道」 第23回、第24回：篠浦千史 「障がい者と教会」 第25回、第26回：道家紀一 「日本基督教団 教憲・教規」、「各教会規則、宗教法人規則」 第27回、第28回：加藤幹夫 「牧会者の試練とその克服」 第29回、第30回：山崎忍 「刑務所伝道」 第31回、第32回：春原禎光 「ITと伝道」 第33回、第34回：高橋貞二郎 「学校伝道と教会」 第35回、第36回：近藤勝彦 「東京神学大学史Ⅰ」 第37回、第38回：近藤勝彦 「東京神学大学史Ⅱ」 * 講師は予定。 講義は金曜・土曜の1、2時間目に行われる。また、1月上旬に開催される『教職者のためのオンライン・シンポジウム』への参加も課す（講師、日程および講義概要は当該年度に決定する）。			
<準備学習等の指示>			
日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」 に目を通しておくこと。			
<テキスト>			
「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。			
<参考書・参考資料等> 担当教員、講師がそれぞれの講義の中で紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。学期末には、牧会にあたってとくに有益であったことをまとめたレポート（約 2000 字）を作成する。その末尾に今後の総合講義に対する意見も述べる。			